

知床世界自然遺産地域における保全・共生推進調査費

65百万円（65百万円）

自然環境局自然環境計画課

1．事業の概要

平成17年7月の第29回世界遺産委員会において、「知床」（北海道）が新たに世界自然遺産として登録された。

登録後は知床が有する世界的に顕著な普遍的価値（OUV：Outstanding Universal Value）を保全する重い国際的責務が生じ、特に「海域管理計画の早期策定（策定期限：平成20年度）」や「IUCNの評価報告書に示された課題（管理のための指標の開発、登山道管理戦略の策定、科学的な調査研究の推進等）」、「評価調査団の招致（H19年度拡充）」など、知床の世界自然遺産登録に際して勧告された措置についての的確な履行が求められる。知床が有する世界的に顕著な普遍的価値の保全と適正な利用を図っていくため、生態学的に持続可能な資源利用のあり方を整理するとともに、世界遺産による付加価値化（ブランド化）など具体的な方策を検討し、知床が有する世界的に顕著な普遍的価値と共生した地域づくりを目指す。本調査は学識経験者の協力を得て、関係機関（北海道、林野庁、地元等）と連携して行う。

2．事業計画

事業内容	H18年度	H19年度	H20年度
(1) 登録勧告への対応			
海域管理計画の策定	—— <調査・	検討> ——	—— <策定> ——
IUCN評価報告書に示された課題 （「海と森の生きもの調査」を含む）		<検討・実施>	——
評価調査団の招致（H19拡充）		——	
(2) OUVと共生した地域づくり	—— <調査・	検討> ——	—— <とりまとめ> ——

3．施策の効果

知床世界自然遺産地域の保護と適正利用の推進

知床が有する世界的に顕著な普遍的価値と共生した地域づくりの推進

知床世界自然遺産地域における保全・共生の推進

➤平成17年7月:
「知床」の世界自然遺産登録

国際的責務



(1) 世界遺産委員会における勧告への対応

- 海域管理計画の策定(策定期限:2008年)
- IUCNとの調整により実施が必要とされた措置
(観光客の管理、登山道管理戦略の検討、
エゾシカ・ヒグマの管理、管理指標・水準の開発等)
- サケ科魚類管理計画の策定
- IUCNによる評価調査団の招致(2007年度)

(2) 知床世界自然地域での保全と適正利用の推進

- 世界遺産センターの整備
- 学術的調査
(世界遺産条約第5条に基づく)

